

団体名	高次脳機能障害者小金井友の会 いちごえ会
助成額	100,000 円
申請事業名	地域の高次脳機能障害者に寄り添い社会復帰を手助けする当会の各種活動の維持と展開
HP	https://ichigoe.org/

活動・事業報告

講演会は社会の理解を深め会員にとっても役立つ毎年意義あるものを開催、今回は長年の交流で当会と関係の深い、以下の三氏が「高次脳機能障害当事者と家族」という括りで講演。緑川晶(中央大学教授)「高次脳機能障害者の理解と支援に向けて」、浜本加奈子(中央大学大学院生)「家族支援の取り組みについて」家族への継続的聴講、山下英香((中央大学卒業生)「学生による高次脳機能障害理解の取り組みについて」。その後当会上田敏顧問を座長として質疑の機会も設定。

交流会は八月と十二月の二回開催。そしてその内容などを話し合う運営委員会を数多く開催。そ

の際の交通費を委員の当事者会員に支給することで、経済上の負担を軽減。又、芋煮会は今回会場の都合で参加者を限定せざるを得なかったが、運営委員の慰労と役員会の新年会を兼ねて一月に開催。三月の恒例の花見を兼ねた交流会は、今回コロナウイルス蔓延の自粛で他の活動と同様に残念ながら中止となった。

その他、ホームページでの情報発信と相談会、家族会(茶和会)や役員会、新施設の勉強会をそれぞれ開催。

一次ページ以降に詳しい活動報告があります。

助成金を受けての成果とその自己評価

講演会は 45 名が聴講。回収したアンケートの例として、【Sさん】①障害の受容ということの大切さ、かつ難しさが良くわかりました。②今日よかったのは多くの方のテーマ(か)ある。お話があり、わかりやすかったです。今日のわかり方は私は当事者ですが、それぞれに理解がふかまる お話をもっとわかるのだと思います。【NFさん】①多摩市で高次脳支援をしています。家族会の運営、行政との連携、当事者の活動など参考になることがたくさんありました。…(略)。いちごえ会のような組織的、若い会員の参加がある団体として維持するにはどういうポイントが必要かヒントをたくさんいただきました。ありがとうございました。…(略)

クリスマス交流会開催準備の例。【Uさん】運営委員の皆さま 昨日でクリスマス会の参加申し込みが締め、最終結果をいただいたのでお知らせします。応募 17 件、30 名(大人 19、子供 4、中大生 7)となりました。まだ当日参加など、多少の増員はあり得ますので、そのつもりで準備をしていきたいと思ひます。

運営委員会の開催と前後のメールのやりとりなど、家族会員の随時のアドバイスはあるものの、運営委員相互が運営し作り上げていく中で、その都度達成感を相互に共有出来たのではないかと。全般的な自己評価としては、御助成金を受けることにより当会の活動を質量共に向上させることが出来たと考えている。

今後の活動の展望

高次脳機能障害に対する理解と、障害(者)を支える福祉制度や行政の取り組みは、当会の設立時と比べてそれなりに進んで来てはいるが、人によって全く症状が異なり、また外見からは障害者と必ずしも分からないこの「見えない障害」は、周囲の理解や受け入れ方において地域により依然大きな差がある。しかしながら、これまで実績を積み重ねてきた当会の諸活動、例えば当事者の運営委員が企画し考え運営する「交流会」の活動を通して当事者自身と家族が障害を受け入れ、そして周囲が理解し支えていくことを更に拡げたい。我々の活動は小金井市という地域に根差

したものであるが、ホームページで発信することで、これまでも広い範囲でより大きな理解と支援を得て来ており、読みやすい記事内容と質の高い運営を継続していきたい。そして念願の新施設実現の為に地元法人との勉強会での連携を更に深めて、行政や関係機関ともコミュニケーションを深め、建設用地の確保に繋げたい。世界的なコロナウイルスの流行で時期を見極めるのが難しいが、講演会開催も継続する。私達はこれらのことで他の障害者や高齢者、それを支える人々と共に地域を少しでも住みやすく出来るのではと考えている。

●第12回講演会「高次脳機能障害当事者と家族」

高次脳機能障害者の理解と支援に向けて

中央大学文学部心理学教授・
臨床心理士・公認心理師 緑川晶氏

高次脳機能障害は分かりにくい。当事者・家族も本当の状態の理解が難しい。個人差が大きく、周囲の人々は症状を想像できない。



家族支援の取り組みについて

中央大学大学院生 臨床心理学 浜本加奈子さん

いちごえ会の家族に個別に傾聴し、家族の介護負担感が減少したが、継続的傾聴が必要と感じました。

学生による高次脳機能障害理解の取り組みについて

中央大学人文社会学科心理
学専攻 山下英香さん

福祉専門学校卒業後障害福祉分野の事業所に勤務。社会福祉士、精神保健福祉士。
先ず目の前の貴方と向き合い「人の暮らし方やしあわせ」を一緒に考えています。



●令和元年（2019年）8月25日に萌え木ホールにて開催された令和初、新運営委員会初の交流会は子供連れの参加で和やかで家族的な交流会でした。



オープニングソング「幸せなら手をたたこう」を松嶋有香さんのギター伴奏・山下晃司さんのリードで合唱しました

第一部：自己紹介と近況報告

話せる方は近況と目標を話され、緊張気味の方や言葉が出ない人もゆっくりと話され笑顔と拍手に包まれました。子供さんの自己紹介では女兒は恥じらいながら、また活発な男児は大声で、名前と年齢を発表し、笑顔が溢れました。高次脳機能障害の会は楽しいね！子供の声に次代のいちごえ会は安泰ですね。

第二部：グループディスカッション

8人一組で4班に分かれ、「テーマ」は班ごとに決め悩みや楽しかったことを話し合いました。

Sさんが9月から近くのスーパーで働くことが決まり、祝福と激励の拍手が沸き起こりお母さんは感激の涙で声が出ませんでした。三味線を聴いた、息子さんが有名ブランドのアパレル業界で海外に行く、夜店の綿飴が大好きで綿飴の追っかけしている、好きが高じて綿飴づくりに挑戦、綿飴が手やまつげについて難儀したことなど愉快的話に盛り上がりました。

中央大学緑川ゼミ博士前期課程2年浜本加奈子さんから「介護する家族の心理的支援のニーズ」についてアンケートの協力を求められ、会場の介護者に一人一人丁寧に説明後、用紙を手渡しされました。今後は在宅支援のあり方について研究論文を作成される予定だそうで、介護する家族の支援を期待します。



自己紹介・近況報告を聞く参加者の方々



●第21回交流会クリスマス会を開催しました
みんなが ONE・TEAM！クリスマス・フェスタ!!



第一部 みんなの自己紹介！

今年もクリスマス！どなたがいるかな？名前や当事者、家族などの立場、お住まい等から今までのクリスマスでもらって嬉しかったプレゼント、今年がんばってきたことでワイワイとまさに ONE・TEAM でした。

第二部 楽しい中央大学生のリクリエーション！

第二部は中央大学 緑川ゼミの総勢7名のゲーム！4チームで、『箱の中身はなんだろう？ゲーム』と『チーム対抗イラスト当てゲーム』でした。まずはタワシやネクタイなど、手触りだけでどこまで？です。続いて、学生が描いたイラストが何か当てるゲーム。参加者のお子さんが大活躍したりして…老いも若きも面白く楽しみました。結果は1等がCチーム、ブービー賞3等がAチームでした。

最後は山下晃司さんリード、松嶋有香さんギターでクリスマス・ソングの合唱でした。

増村代表のコメント

第21回交流会は非常に良い交流会でした。運営委員会の皆さまと音楽担当松嶋有香さん・中大学生の息の合ったワンチームの交流会運営でした。中大生の用意したゲームは高次脳機能障害者だけでなく失語症者・子供にも配慮したものでした。

事前の打ち合わせの賜物でしょう。ご厚情を身に沁みました。いちごえ会交流会の成長を感じました。運営委員会の皆さまありがとうございました。

ビデオレターはこちらから
<https://youtu.be/6V53q98E9hE>



第21回交流会クリスマス会・集合写真